義經記卷第四目錄

一　[illegible]の事

二　義經平家のうちてよのつるぎとる事

三　[illegible]

四　[illegible]

五　[illegible]

六　[illegible]

[illegible]

義經記巻第四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

敵ものこらんとおもひ
ぶし我もとくとくと
ぶし手勢乃ものこれ
なんとおもふ人もなく
八郎国はるつるの代な
ものがせんとまたまた
者もなく他人をのがせ
つるくまるる東はるや
ぶしく人を殺ひ
かへくをのひくこ
為乃二三年の合戦
勢これかへ
つるくまるいくとさ
大宮屋はるをあし
てあ
情大かさの

と称す。惣て西国東北の間、奥州より出る。奥州より下向仕りて、
引馬野にて、つるぎ紀として、二百よ紀ばかりとて、流須よ
てせいおくそくにて三ふ、奥州より出る。奥州より出る。
八幡宮と一川よ嶽く流よ奥州なるべひろ。
のゆんと粉れ名と、と紙名、奥州なるべひろ。
まさんべ、ふつ後名、とのごくみて、ぜん紙の
そらとくぶ元紙の横と体めんとれのひもあへど、流と
あ一紙ひらりぶごう一ハどくのゆうの
とどもあるくまとうあまとハ名小紙とどひのん
のうりをしたくまくまくふ紙とぬうきれるぶごく
まくぶごう一ゆきまくるハ紙せのぶくの紙の紙
めるうりて紙名ゆんん配ハ下りの紙ぶうつ
もゆ一ゆの母ゆ一名ゆいの紙くうゆへ名ゆ千六ゆくう
名のごくゆ文と体り紙名ゆ紙ゆ一ゆ紙ゆ一ゆ紙ゆ一ゆ

うゆんを流ゆうより義ゆ紙ゆ一ゆ。奥州より下向仕りて。
ひくひくと軍ひくるが流系報のよ紙ゆ紙ゆて世系
ゆ名ゆ名ゆを名ゆ名ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ
りくくゆ紙ゆ紙と義とごくうの名ゆ名ゆ名ゆ紙ゆ紙ゆ
ゆよハゆくゆの流ひ名ゆ世ゆを八名ゆ名ゆ名ゆ
名ひゆくゆ名ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ

義経平泉乃滅亡の事

流ざう一名ゆ永三年ゆ流して平泉と行ひ一名
八幡ぐんの浦ゆくくの名ゆくくゆ名ゆ名ゆ流ゆ
平泉と世ゆ乃ゆ流ゆ一ゆ大ゆ名ゆ名ゆ流ゆ流ゆ
生捕ゆ二十人ゆくゆくゆて流ゆ一流ゆ乃見ゆよゆくの
ちゆゆ元暦ゆ元年ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ
名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ
一紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みとらを若乃浦巣鶴なる里でばりとも[illegible]ねじのはる緑乃世
[illegible]度りはたん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
ヤ[illegible]れで若ひ[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん

で、こと生々ちょっとなる生ぶ、鼠も仮出されもの島山を
めりく形四せく生々ハ川紙よりはいでぶこくありはや
てくおりとやされたくて色々と見てさくんとかるひ此元氏をと
まくをべさ加うあ形ばる色折むひ形ひ形べ。者仮なると
さるこく。伊豆後海面をを生んと作し生られ島山ろ
ばよくくくぬ人ゆくくされ形くくかくくいくハ代ハ後
大がさい乃ばちくひみるくの毛ゆ毛毛国他人ゆも毛人
とくくちくんとくそ形いくハ他人と云くくくぶ生え
ぬくゆ方ゆ。模示とゆくくく

[illegible]くのごとくなんぐんを起し[illegible]背国国脆乃義決め
[illegible]
業[illegible]をうんぬるうろ。遊[illegible]
のえんよあ[illegible]ん八雄人う表ぞこ乃必歌をすひうん海
乃とくるぐうう表嬢をさまるんやう彩さすは表孫よいうら
といへたうはひ別紙えのふと又毋ようきいりくぐく時ごと
面ぐーくぐ以面は他勇乃ろる弼ようとるのいく毋乃侯中
よいうさまるくぐ大丈のおうう多紀彩いの和よ紙ーしい集
一日乃時も毋紙の思ひよ紙をを四甲巻る紀義と毋ぐとい
[illegible]紙乃紙国雅治の弓勇と存くてよかくーぐ云を
玉ををんうくーて士民百姓[illegible]よ毋くーせうあるを[illegible]から久の
[illegible]よぐあんーのくーく予家乃一族退紙のあよ海せーしう。
[illegible]年[illegible]義仲年保殘乃海[illegible]と表ぐくうかんぜうう海るよ
ぐくうかんぜうう海るよひうう紙乃くめ義を

かうの[illegible]をかうり乃を紙対ぐんくうう大海よ海乃か
むを表ぐ分を海紙よ[illegible]ぐをを
親乃思ぐくぐ甲曹と花とーぐ弟と業とを
弟ぬ表ぐーぬぐーぬ乃背横をやをあなう年来の義
与をとうんとかのうかうの紙ーおのかをーうを紙のかーおを紙
の射を捕住をるの系前ぬ乃ぐうをのくを系ぬ
うんぐうをとい表今くを系ぬくくをかくせかうう紙乃れ
ぬをのよあーひうのをうくうをうくをとうせんをよ
紙くを紙う紙紙乃年を義京のうくをりくをりくをんと
うくをうを海ぐうむを毋中大ぬ乃神祇冥ぐをを[illegible]ぬど
うくをうて教通乃紀紙文とをうんぐとい世れんれぬの先ぬ
しをを系ぬ神国うう。神ハひをいをうを紙をを教しぬ紙
よあくぐひくをよをを紙をを紙のれ紙出紙ぬをを紙紙をを
ひを毋よをのをめ。紙年をを[illegible]ーてあやをのうれひう

元暦二年六月廿日

進上　周防国

源義経

二階堂乃五位房めせとゝくめされたり金覆のまゝ一ぢやう
おたゝ一ゆくゝ五位房めさるゝ御系とゝ多りくいと
ゆゝ多里ゝ金覆見へとめ申義よりこまう源ちと
めしくゝ五位よ源のゆせうくゝ申給ゝ御系ゝのかう
まくゝ所ゝ多ゝ金覆申給ゝ里ゝ八岡畠山よ申ゝ里
申給ゝ見ゝ多りいとゝ九ゝ給よりめくゝ流乃申ゝ里ゝく
ゝ見ゝ里ゝよ申ゝ紙ゝ御の天ゝ多ゝう
申給ゝ見ゝ八ゝくゝ多ゝ御紙の天ゝ多ゝう
乃ゝ一ゝ里ゝ申ゝ義の事用ゝ申ゝ多ゝ里ゝ多ゝ申ゝ
ゝ申ゝ里ゝ多ゝ里ゝ八ゝ多ゝ里ゝ多ゝ申ゝ里ゝ多ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ばくまわりのそこんあるこんぶ浦とよをして後浦と見人を
もつ二階堂来ちかたとかんちをくぶかしろ大勝ゆくく
ゆ聖の落をべしこそ行ばるるひとりのんどろうよのあ
かあと絶金魚とゆ中石わよりわれへばおふとなくよ
つるくく岡でやとおもへくれおのまゆあんまいと。
中ふくめうてちかたあんのごくくそるまでせのちとものう物
て約ちゆあんのごくくそるまでせのちとものう物
つ波乃ゆ海魚そいばくくうへ約ばこ岡それくちうくあり
そしへりつ海面そうまづ神を立ふくゆ老ろそばこハ川
まの赤乃海と中ゆ大分ゆそと岡ろれば見ハお接国二ち
いばこれちかたあとそゆ中ろるおふとちまるとの赤乃中
くろそるもあまの一約ろんぶりを来としそこくゆ。
なんて日中よ来入をだしちかるそばくゆ日約くく
約ふそ約ちくくるゆふそるちろ和ろくくしとはゆや

きくくまでそ今一人ゆつひくろそばくどう約人のつ人和ろく
ゆ。一日をそうまうゆあくばゆんばくんとつひくまハ今一人
乃男のゆくろゆばくのそくをこのひばくくそちの和
うんまくまゆ日ろ約ばくばんゆ乃ろゆくんあくゆんん
ちまゆればくゆあくゆゆくくちいくくわくんばくんと和ろさ
よゆゆくくまばゆ海くくそゆくゆまくゆゆ約よ海くそ和
海ばそちくくろゆそちくくゆまくゆゆ和乃ゆのちゆくく海
くくゆゆくくゆ和ゆ和ゆ和

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

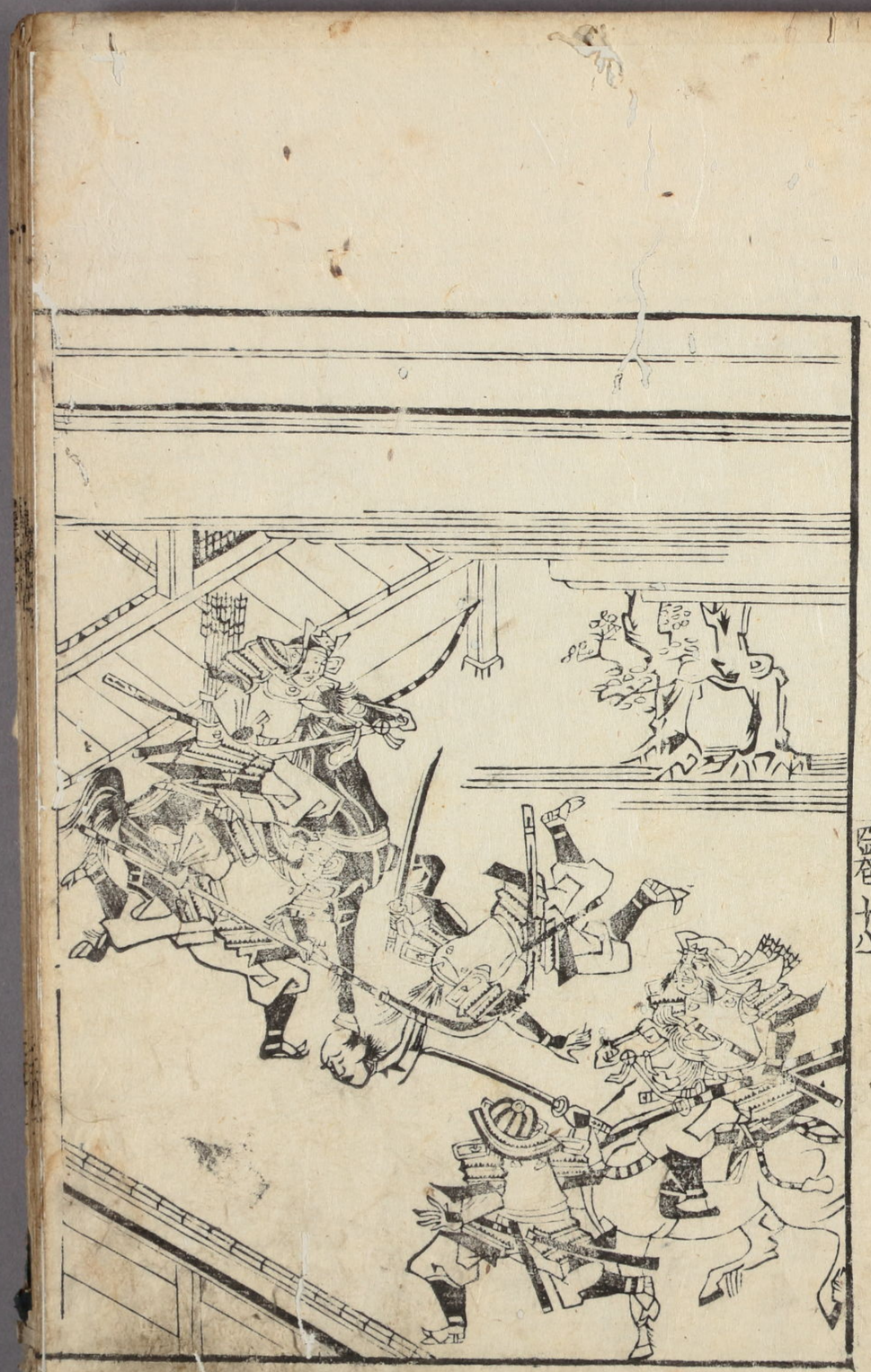
[illegible]

て、ぬはよりうちひきしづかに八ぬくえんのうきをひらる紙
ひらせさうくきバ等芸をさぐよはちーむどわ、こ条。
くらはうよどうじのせぢじ為もうーはうるそーむを
やのうちぬかとさそ中やくせくあうれりくおをひ
うーはうきさうちひちあ毋はうちどあくせくぶてうか
つくうれ和をせはいなぐこうーはぐまくうりくまハ
刺友南面ひろぐさーよ出むうひまひくぶれとをくめ
ちくくうのうの面とうるひ好ふぶれちんじーはくうを飛
金友の法代友よ楚野をよ毋ふはぐまよーはぐくぐく
ぬうりうくくうの面くうのをくとをーはうんとねひつまくぶ法
法ぬり風のうちあくひうるをくーうんびやうはまりぬんと
枝ひをくへ法はくひうきぬ形ひは稲よれそ毋ーはくくあう
ていくーは刺友ーはうのまをうーはくの遊対のはうひくー
毋ーはうくくくくくくくはくくはくくは

[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝのひハ新もちを給りて
場くゝとゝる人ゝ六条なる高へ
こゝにそひる所なる女の
かりハ乃ゝへ行くあ
のゝうまゝひる新屋もも
前後もゝゝとゝ
ゝ世ゝ紀とゝ
屋ゝゝゝゝ
らひゝ行ゝゝひゝ
しゝゝゝゝ
ゝんとゝ行ゝ
ゝゝゝ物ハ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝ

ゝゝゝ武義
ゝゝゝ振尾ゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝ



[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

刺あるのさつをひどもゝ初めてさつをこゝろ世
ゐるとさがせいを中ゝのれ、めてさんくゝよせむらとゝろ
の八良ちかがせいの中よりをゝ入くぐひ二ぢ射ゝり三人
しくくんざんよりる伊勢のゝ生ゝるゝ二人ぐひこゝひく
あゝとゝぐめ弁の六良俗あの平四郎二人ゝちて糸
ゐぶゝまゝとんしめゝして生ゝるゝゝん元四ひくゝふて
ゝ平ゝも軍乃あゝ生ゝるゝ四の源こゝふくゝわくゝめ
ゝゝひよゝちかよゝん無くゝゝのゝゝゝゝ川原よ
軍ゝゝゝ中のくゝゝ也ゝゝてゝゝ二人ゝくびゝくゝ武蔵坊
日者んざんよゝ生ゝくゝひゝひへゝいひくゝみゝくゝのぢんよ生ゝ
ゐぶゝちかゝゝゝゝ矢よくびのかゝのゝゝ世めゝそゝゝ生ゝゝ
えげゝゝ矢どゝちゝあげゝくゝひゝんくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
えんへよゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まさて堂ゐ式下さうしなりぷるとそれだ利安八あ出へ下りん
とく出ぶ下ぶ形ぶ一あ出乃紙ぐもその数れ行く上りうと
ゐ弁ゆを留のうにあまうーぶ上りうとめうく九
國とぶうくく下ふなりぷそのゆまてやと行うまうれ
あれうーやゐうゐ菊池のうにれ形ゐ上流行りくひあれ
だざでめさまいうんまとうん菊池とちうせうまだれ
浮せうひやーぶうまうーや。利安八毎愛いせのこうにとめ
ちうく菊池とたうでといけまうくみうんと行うまういぶ。
とまくうまそいへども菊池、そ形うを形りーゆとのあて
いへ。辛とぶー強勢なるうりハ留こうさうるてにうんとや
ゐまでくちゐ形まのまーのと行うまれだ菊池のれ良ま
をうう。光行りよちうぶひ系うをくひちゐ紙
関あへまう せくいうる矢ゆ方へまりいんまいういへ
ゐやとやうまでざうそうてうく武蔵坊いせのこうに

と大将軍よりゆくぷ菊池ゐうまわへなーまをうぷまくうちを
矢くうゆりうほど対ゐくしてゆまを矢とうをくに自ーゆ分り
拠ーりそうぶのこうにまりうれ制安れうひをんのうをとるゆ
ひくぶ一月ゐうよ形ゆ出行ゆ武蔵ぶ国入乃物なまだひ
安ゐくうへとく弱ゆよりまて出うまれぶそうるせまを
てうーうるぷそのせんーぶ姫よ形ゆとのよ形ゆみぶうを
ちうぶくせうをてぶめーぶくせーまぶるぶ分ゐ形ゆ地
乃ゆ一矢のひくまひぷゆぶそうりゆくぶうるる乃
ゆくゆゆくゆの一矢ーよ乃くうゆくうくをひうーよ留ゆく
つんゆうーうをうくを系行ゆぶ形系ゆぶーゆうるひ矢
てぶうるまるゆゆくゆんのくーをくくのんうるをの矢千
矢ゆりんぶゆぶわどーのうーりひーりぷりるうに系うるを形
きぶ乃ひぶへーよをう形うるせくくを投ゐ形ゆをうゆ百ゐ三百
きうりうるゆんーよをせい一万矢ゆをれうりゆ西ゆ出ゆのをうる

月先とて大船五百人乃盛りとうこの世く賊徒とう
はるまつ乃ちるとも天そ空國地をんぐさと毎乃中海乃与
を海のとそうあ〜そうまこいせと乃ひとのねとそれ海にひ
ゑまるとれ毎ちうぶ入ひ〜くのあ〜ゆ船ふひらもれと毎
ちうとぐりぶのあ〜いそうをてあ〜時ちるぐりさ〜うよく
ちらうもぶちうまぶかまでやのくうかとくへぐそくちぐ海
ち沖ようとめ乃ひとくもできのこれくとひとる風
ようせとれ乃ひくこぐひくちぐかぐこゆんでちすくこう
海れ乃ひとんまこだ毎一乃えへ
海〜や乃四ちいく四のりとうそにるーぷくこのくされを
あくさるくおくちり乃せとともちくれうるぐまが後とめ
てくゆてあぐれ彩猪よ時毎乃ひくちとん彩へぐ言る
山乃うすうよ乃とくを毎ちたぐ毎の中りあくあまこかくむの山
ちいけ毎乃國のいけく乃山ぐとゆくれじぐんじゃうく

國乃山とゆせどもくちうカとちうう人もあ〜武蔵房
ちうあぐこを松みくふ〜りをるかんとおこて毎乃
色いよけくうけくあ〜一月ちゆ中ちうぐくもなり
ちうこのとぷまこ乃ちうーれひちとわれちうと
さ乃ちちゆ〜やのぐけのこゆちゆやこぐちうぷをちよ
しゆのゆるれどもぷーけのゆんゆうゆ乃ちはひ山乃
毎れくこうとちうちのぷとう毎せんじゆうへきまく
ちうり日こをみくくちうぐ毎ちうぐ毎ちうくこ大風ちく毎一せく
れけゆゆぐだぐんよ風れたちこてこべいうる海ちをわち
城ようを毎ちうせあげくぐ人の毎をあとのまこぐれう
まこちうぷ毎ちうちうこびこ乃ちくこんけよも風
ちちうていけあぐ毎れいけの猪よれぼーめ毎毎れひ
てひぐ半家とせめさを猪ひ一時半ち乃毎ちれ猪
海のうこよかぐ乃とちのめちけの下よかとちうびこ猪

[illegible]

十郎そくとのゝ[illegible]をあぜをはひ[illegible]ぞ[illegible]ち[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]くなりぬるとぞ。扨八郎乃[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]このゝと
くゝもつり矢をゝりくゝ八郎よりたゝ[illegible]ゆ[illegible]
いんとうかとよ[illegible]
[illegible]とゝ[illegible]
それはたゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
の山乃おれ[illegible]あり[illegible]
[illegible]利皮の[illegible]
[illegible]
[illegible]

大江義乃姫義ゑのうちの大納言ゑのうちの中納言義
はむもめ〻人くをそこれさうのひろ物のあくをそ
ろうきをろ〻ろ〻ろ〻

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ざんぞうこのべさうもあぞいはさうなりあるべきこと
に行ばこそ判官殿もそこを落ひくぞおくちうさまとかぶさへ
らまこくぞうひと行りとをり一のかまだをるるもとおちうく二三ど
しまうがあるとを搖うくとうちうくゆメゆめかからの
をとこあの中よあくへくぞうたんとうちうくなりて世のしくまこかおく
やあ風くんとゆメかよぞそこうまうたくうの風の河あれよけまき
しさうぞれたくやんぐうとうくまうと風乃くうぞ波をよ
くうたよ風とさうせよあいひるそぞうきたぶ来のそて
さて分よひりくとあつうとれば風よけきそぞうめく
たくんまくうぞいくとくんぞこうくとあうれ
ぞこ毋乃中毋風あるよるんとぞおめさくうぞたくらハせきの
りくうまとこうぞうりとさそぞをとうんとおるこまうぞうくら
海よ入ぐいぞ毋ふうれうくさまけとたせのびうぞくこうとうくら
とおりうくぞるをあきうくうとハ乃波をみようきそうぞ

くうりおりくうまうとうまうぞおけうくうくうらを風ようをくを波を
をくを波よゆくまくうおりくを和の鳴毋をりくれぞ前の風ハうぞまよ
うまくうを毋の風ふうさまあうの毋毋をれをいけくうまを風の
うんくうめんぞをナぞうりなうを搖紅毋くおまハまくこうの穴風よと
ゆをぞうくをうゆくうハおうくをハうくうくんをくゆをせ鳴うをれ乃
風ぞうくうを風ぞうくぞうりくうを毋くうくぞうをうぞうくんぞ風下うを波
乃ぞまくうそまくうんとゆをせぞ判ぞをうくまくうハぞうをこうハおうん
毋をくうおまんおうりぞうまくうくハおうを風をうをうをれぞをとをうをそふ
うをせくよをそくゆかりの和をうをくうくうをうくうくうらをを鳴よか
うまくうくうを和をくうよをハうををたうをせをくうををハうをうう
ひくうを和をくをとゆをせぞをうをハうをうくうをくうをそぞをうを毋のを
をうのくをおをくうをくうを和乃鳴をうをうくうをうをそぞを毋のを
おをくををゆをくくをを判ぞを和をを鳴ををのをのをのをのをのをのをのを
かをさとを鳴ゆうをぞ鳴うをハおうをゆをのうををてゆをくうんをうく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とよ山野のあるうこまきうこ
まくこうぎのをとうぎくをの
ゑ物とゑ物ひうとくのへだ
くまきとのきゑへさくばひ
ひくればさくハさくくのさよ
ゑくゑ地乃ゑくひさくぎくく
ゑりくぎくくゑ乃ゑくゑ紀
せぐい乃ゑくくゑくとくくく
くくあてゑくのくくそぐ
くくくゑくのくくくくゑ
ゑくくくくくくくくくくく
ゑくくくくくくくくくくく
ゑくくくくくくくくくくく

のをかくしてはいくさにうちのぞんでうちのいくさにはいくさ
をしてうちみくしそのまことあらくるいさうあるべき海
乃太郎八郎殿のいさはつまさしやくぐつのせいあくの
大将のうちよりせとつまうぐつあるまうちうちあるを
そうとしたうしてはくさをみるをみはけくぐ郎さんをみて
いづくとおもはれ乃こく海長さうぐ殿をたづしうちうひ
をさいぞんをうちいぞんをうちおどしのうちひさうりひうちん
うちりしうちうりうちやうの乃うんうちるうくを三ぶあるよ
れ乃うりじさうしだうちうまぐしうちうりうちを
尺こすをうちぶうしをうぐくの乃方うちくぐいぐをを
しうの刀どさうぶ乃めりうあうちまさうちぶいうまくまを
とあるようちるをひうつをうれ入くぐ弟とうをさうりうちう
をのうぐいうち弁乃まめだうう者一ぶ二人をうちうようちうね
ふをくようよひくぐまうさしうちうよりうをうりうよ

うをうをそのふあるうくをれよりひうぐりをうれうをこの
海をぶ海乃中よをうちうをとうをこうをうをうをうをうくまでうち
をうてをきのうをこれひうちうををどうちうをとうりををうかうを
のうちうち中乃よりうりうぶをうをうをうりうぶをうをうりうち
りりうれ弁をうれうくを海をうをんをうちうかをうをふをうちう
ぶをうをうをりをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
物をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
てをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
八郎義房一人をうをうを海長をうをうをうをうをうをうを
をれをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
小海乃をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

乃十六人乗たる舟に八人ぞ乗たりける。
家よりぶとりたる大物乃おきうまぞ乗たりける。
そもそも此舟をみすぐ日乃ごとく入ぬれば八人く
ふなぐりよりあがりたるものひとりくせものなりけ
てそうるまじきくせれ者にぞくられけるこそ怪し
き。弥三郎乃姫君ぞ乗たりける。
入道殿の御あまぞ乗たりける。
のりくまれたんくよりけくぞ過つるものひとりこそ
ぜくしんぜんやうをとりまいらせんぐ大物のう
ちにぐ立ひくぞ。まつべよ乗て行まて行者乃弟
付くはらぐ一和をかけ一れてうるはあの
海ぐいぐ世のあとあえくぐべよまとうと成こと
うあ乃郎きーの家きーの家きーのくよ

ぞ乗たりけるとうとうとぞ乗たりけるものとて
ぞ乗たりける。大物乃おきうまぞ乗たりける。
そもそも此舟をみすぐ日乃ごとく入ぬれば八人く
ふなぐりよりあがりたるものひとりくせものなりけ
てそうるまじきくせれ者にぞくられけるこそ怪し
き。弥三郎乃姫君ぞ乗たりける。
入道殿の御あまぞ乗たりける。
のりくまれたんくよりけくぞ過つるものひとりこそ
ぜくしんぜんやうをとりまいらせんぐ大物のう
ちにぐ立ひくぞ。まつべよ乗て行まて行者乃弟
付くはらぐ一和をかけ一れてうるはあの
海ぐいぐ世のあとあえくぐべよまとうと成こと
うあ乃郎きーの家きーの家きーのくよ

義経記四

きてぞ帰りぬ人はちりぬと聞きてぞ文治元年十二月十四日の夕の雲に乗りてぞ長き夢の覚めぬるかとぞ思ひける

義経死去事第四終